

近代化産業遺産を活用した ESD 実践とその展開

大牟田における産業遺産学習を事例に

社会システム研究科 地域コミュニティ専攻

学籍番号 2013M30005 野中 美和

本論文は、産業遺産学習における地域認識の転換点を明らかにすることを課題としている。近年、日本の近代化、産業化に貢献した産業遺産は様々な視点から注目、活用されるようになっていきている。地域住民が産業遺産から地域とその歴史を学ぶ産業遺産学習もその一つである。こうした産業遺産は、社会構造の変化やそれによる労働の問題、経済格差、人口、少子高齢化、人種、人権、ジェンダー、平和への希求など、その姿をとおして今の日本が直面している課題を浮き彫りする。現代において、我々の周囲で起きている問題はまさにこの産業遺産が建設された時代に起因していると言っても過言ではない。我々は日本の近代化に寄与した遺産から学ぶべきものが多くあることに気づかされたのである。

そこで、本論文では福岡県大牟田市における産業遺産学習を事例に、地域住民の地域認識の転換点に着目して考察を行った。

産業遺産には戦時中の凄惨な出来事を彷彿させるものが多くある。本論文で用いる地域認識の転換点とは、地域住民が自分の住む地域を「隠したいもの、触れられたくないもの」から「誇れるもの」として認識するようになる点を指す。これまでの産業遺産を巡る研究は、建築学や歴史学の視点から論じられることが多かったが、本論文では ESD (Education for Sustainable Development)、すなわち「持続可能な発展のための教育」という視点から産業遺産を論じていく。ESD はもともと、環境問題を解決に導くために用いられるようになった概念であるが、問題解決への議論が進む中で自然環境、生活環境、人間環境などの様々な「環境」問題を解決するための概念に拡大されていった。

この ESD の視点に立って産業遺産教育を眺めることで、産業遺産を「負の遺産」ではなく、多元的に捉え直すことが可能となる。本論文に ESD を用いた狙いはここにある。

環境を多元的にとらえ、ESD の視点と融合させた上で教育実践・学習の場に新たな理論を加えていく試みは様々な研究者により行われているが、本論文においては活動者の意識の変容のプロセスを省察する手法として鈴木敏正の主体形成論を参考にし、学習者が学びを通じて自ら実践する主体になろうとする地域認識の転換点を意識の変容の過程から見出していく。

1 章では、まず、持続可能な開発のための教育(ESD)の概念の整理とその成り立ち整理し、ESD の実践拠点であるユネスコスクールについて、ユネスコスクールの目的と活動、さらに、ESD と生涯学習、地域コミュニティとの関連にも着目し、ESD のもつ可能性に

について検討する。

第2章では、産業遺産の定義や世界遺産について概観し、産業遺産がなぜ社会教育の題材となり得るようになったかを整理する。また、また、産業遺産とESDとの関係について触れ、ESDの特性の一つが様々な地域資源を学びの題材へと転化させ、産業遺産もその一つであること、明らかにする。産業遺産教育の事例についても整理を行う。

第3章では、「ESD・社会教育・生涯学習・産業遺産」の条件をみだし、現在産業遺産学習が盛んである福岡県大牟田市の実践に着目し、調査をすすめていくことを述べる。調査対象となる福岡県大牟田市の歴史や概要、現在の試みなどを整理する。

第4章では、大牟田市内のユネスコスクール、観光協会のボランティアガイド、NPO大牟田・荒尾炭鉱のまちファンクラブの3つの組織に焦点をあて、活動が如何に地域や地域住民に変容を与えるかを明らかにするためのインタビュー調査とその結果をまとめている。報告者自身が大牟田市において実際の活動者と触れ合うことで得られた情報や証言を整理し、産業遺産学習の効果について分析した。これによって産業遺産学習と参加者の意識の変容を結びつける要素も明らかとなった。

なお、本論文では大牟田市内の3つの組織に限定して参与観察およびインタビュー調査を行った。調査対象を限定したのは、意識の高い活動者に焦点を絞ることによって意識変容のプロセスを明確に省察するためである。

第5章の終章では、1～4章をまとめた。

以上のことから、地域住民の地域認識の転換点はESDを視点とした産業遺産学習を通じて得られた「地域の誇り」、「地域への愛着」であることが明らかとなった。人々の地域認識が変わることで、地域の歴史の捉え方も広がる。地域を誇りに思い、地域のアイデンティティも醸成される。今後、より地域の課題に対して主体的に関与し、解決しようと努力するようになることが予想される。これはESDが志向した持続可能な社会を築くための大きな力になると考えられる。